

牛マルキン2月、交雑種で3カ月ぶり補填発動、乳用種も

農畜産業振興機構は11日、牛マルキン事業(肉用牛肥育経営安定特別対策事業)の平成29年2月分補填金単価(概算払い)を公表した。2月は肉専用種で補填の発動はなかったが、交雑種と乳用種は発動。概算払いの補填金単価は交雑種が2万6900円、乳用種が7万1600円となった。なお、補填金単価の確定値は5月上旬に公表する予定。

肉専用種は前月に比べて粗収益が2.9%減少したものの、粗収益が生産コストを上回って推移しているため、補填は発動しない。交雑種は前月に比べて粗収益が6.1%減少し、生産コストが0.6%増加したため、28年11月以来3カ月ぶりに補填金(概算払い)を交付(2万6900円/頭)する。乳用種は前月に比べて、粗収益が0.9%減少したため、補填金単価(概算払い)は前月比3300円/頭増となった。

2月の枝肉卸売価格(税抜き)は、肉専用種が2431円(前月2510円)、交雑種は1409円(1514円)、乳用種は980円(987円)といずれも低下した。

そのほか地域算定県(肉専用種)は岩手(日本短角種)、広島、福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄の10県で行い、岩手(日本短角種)のみで発動し補填金単価(概算払い)は1万3700円。その他では補填の発動はなかった。

また、生産者積立金の免除牛にかかわる補填金単価(概算払い)についても公表し、2月は交雑種と乳用種で発動。補填金単価は交雑種が2万100円、乳用種が5万3700円。補填金単価の確定値は5月上旬に公表する。

豚マルキン、28年度第1〜4四半期養豚補填金概算払い交付なし

農畜産業振興機構は11日、平成28年度第1〜4四半期の養豚経営安定対策事業(豚マルキン)の養豚補填金(概算払い)について、平均粗収益が平均生産コストを上回る見込みとなったことから、交付しないことを発表した。

和光ミートセンターなどがフィリピン牛肉輸出取扱施設に

動物検疫所は10日、対フィリピン牛肉輸出取扱施設について、和光ミートセンター(と畜場)、㈱アグリリス・ワン和光ミートセンター牛肉加工室(食肉処理場)が認定されたと発表した。

肥育牛1頭あたりの補填金単価の算定結果(食肉専用種)

区分	岩手県 (日本短角種)	広島県	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県
粗収益(A)	850,497	1,194,166	1,168,184	1,255,696	1,193,062	1,168,030	1,141,630	1,245,922	1,165,989	1,164,937
生産コスト(B)	872,724	1,060,630	1,073,784	1,077,554	1,073,761	1,062,635	1,069,169	1,091,393	1,095,092	1,046,541
差額(C)=(A)-(B)	-22,227	133,536	94,400	178,142	125,301	105,395	72,331	155,323	90,895	118,396
補填金単価(概算払い)	13,700									

肥育牛1頭あたりの補てん金単価の算定結果(全国) 単位:円/頭

区分	肉専用種	交雑種	乳用種
粗収益(A)	1,229,696	713,049	436,013
生産コスト(B)	1,075,612	751,780	530,586
差額(C)=(A)-(B)	154,084	△38,731	△94,573
補填金単価(概算払い)		26,900	71,600